

## 世界の主な地震

令和3年（2021年）1月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

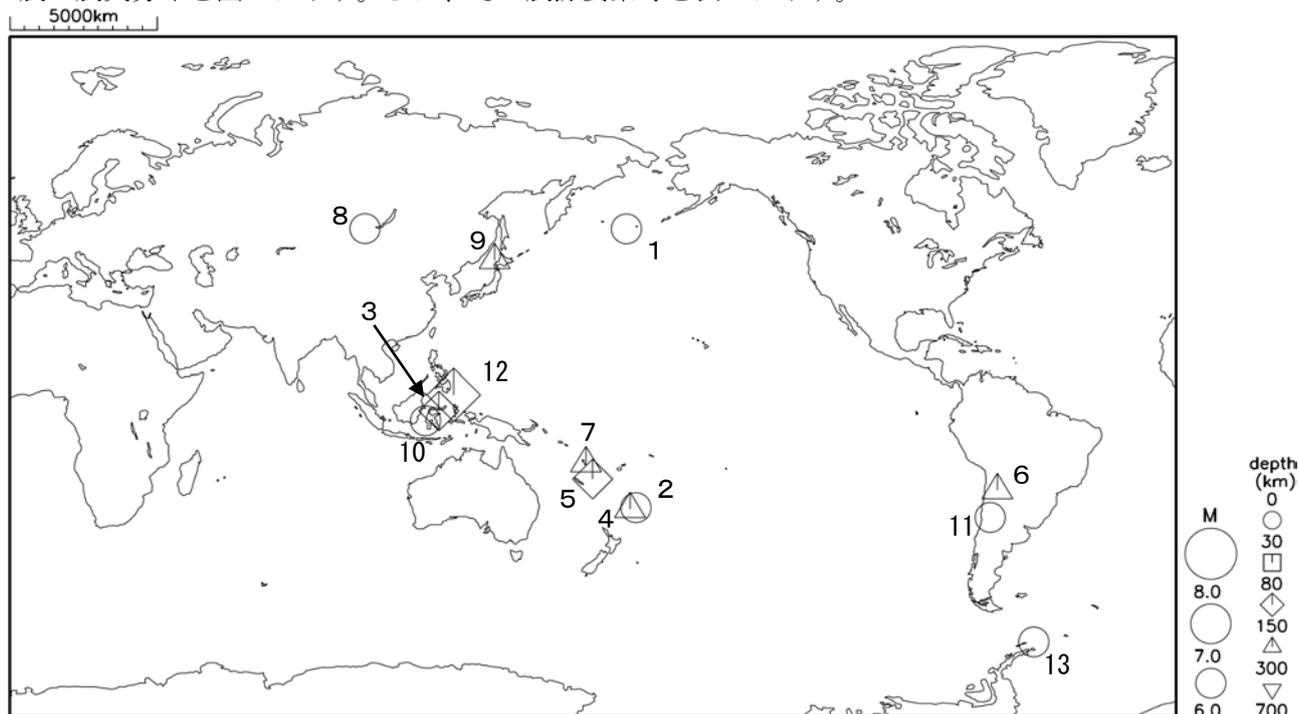


図1 令和3年（2021年）1月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

表1 令和3年（2021年）1月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	遠地
1	03日21時38分	N51° 13.9′	W179° 48.1′	21			6.1	アリューシャン列島アンドリアノフ諸島			
2	06日15時20分	S29° 04.2′	W176° 53.9′	26			6.2	ケルマデック諸島			
3	07日05時59分	N 0° 03.9′	E122° 57.1′	148			6.1	インドネシア、スラウェシ、ミナハサ半島			
4	08日09時28分	S29° 28.6′	W178° 42.1′	224			6.3	ケルマデック諸島			
5	08日14時01分	S20° 44.2′	E169° 52.9′	113			6.1	バヌアツ諸島			
6	10日12時54分	S24° 02.1′	W 66° 37.7′	217			6.1	アルゼンチン、サルタ州			
7	10日15時48分	S16° 02.2′	E167° 51.2′	160			6.1	バヌアツ諸島			
8	12日06時32分	N51° 16.6′	E100° 26.2′	10			6.7	トゥーバ共和国・ブリヤート共和国 (ロシア)–モンゴル国境			
9	12日11時39分	N43° 38.2′	E139° 59.1′	235		6.0	(6.0)	北海道西方沖			
10	15日03時28分	S 2° 58.2′	E118° 53.3′	18			6.2	インドネシア、スラウェシ	死者91人など		
11	19日11時46分	S31° 49.8′	W 68° 48.3′	20			6.4	アルゼンチン、サンファン州			
12	21日21時23分	N 5° 00.4′	E127° 31.0′	96			(7.0)	フィリピン諸島		○	○
13	24日08時36分	S61° 49.5′	W 55° 29.6′	10			(6.9)	サウスシエトランド諸島			○

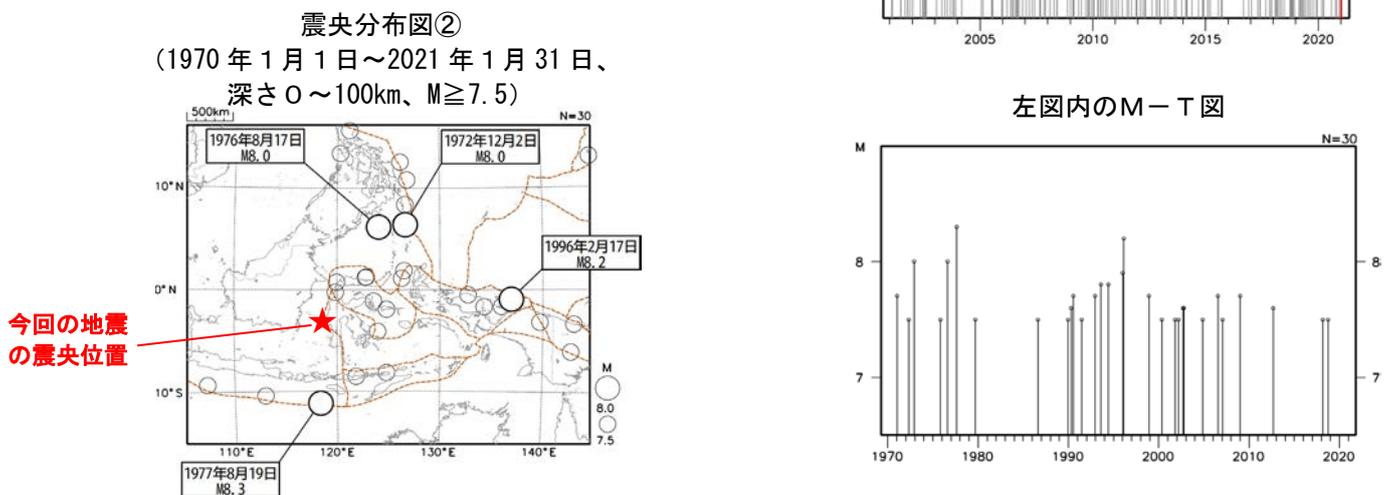
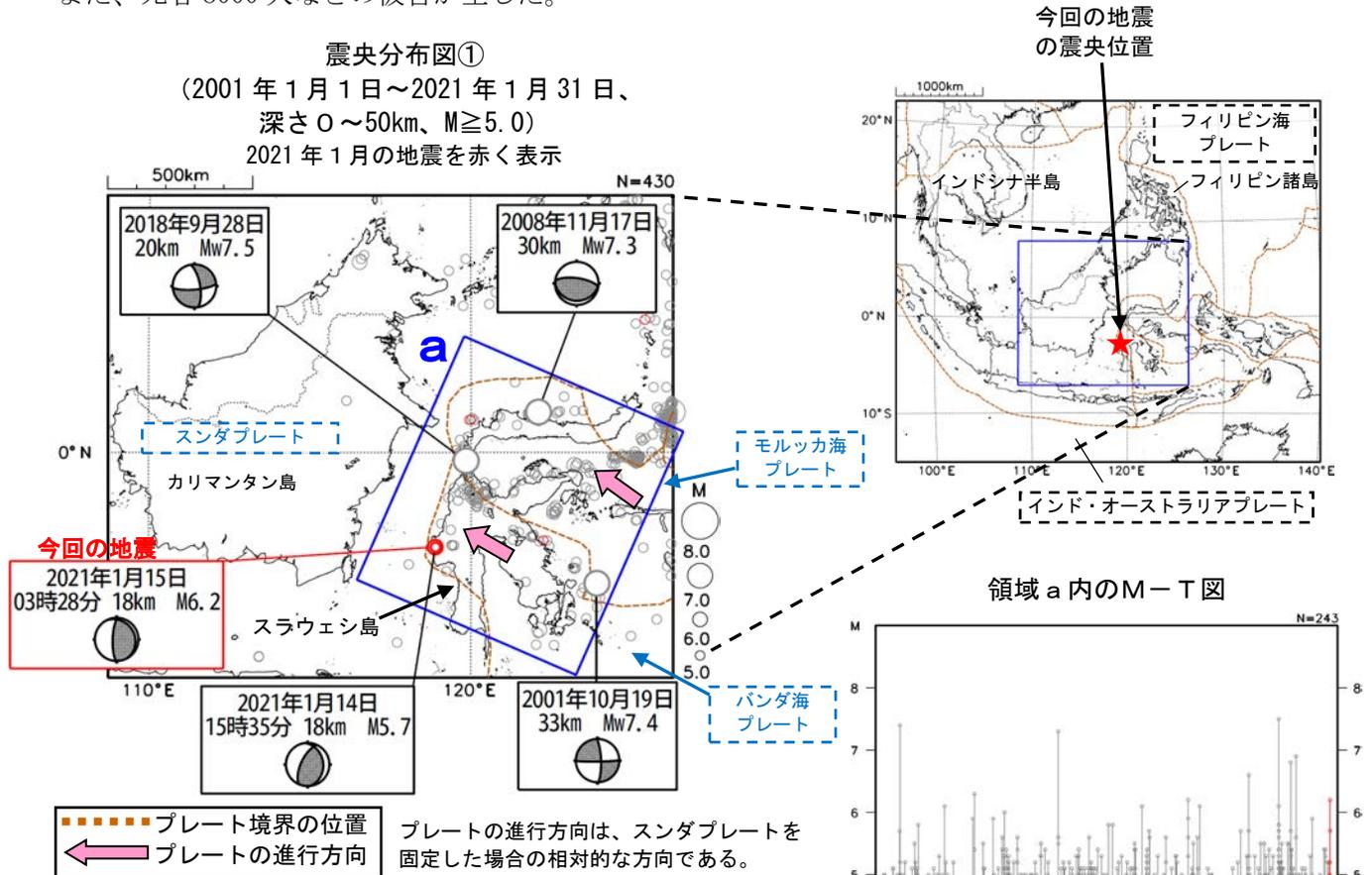
- ・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Earthquake Archive Search & URL Builder” (<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による (2021年2月1日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mj の欄に記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
- ・被害状況は、出典のないものはOCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所)、国内は、総務省消防庁による。
- ・地震発生時刻は日本時間 [日本時間=協定世界時+9時間] である。
- ・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA) (※) を発表したことを表す。 ※気象庁ホームページの「国際的な津波監視体制」 (<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/nwpta.html>) 参照。
- ・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。
- ・深さに「\*」を付したものは、気象庁による CMT 解のセントロイドの深さを表す。
- ・津波の観測値は、米国海洋大気庁 (NOAA; National Oceanic and Atmospheric Administration) による。
- ・2021年1月21日のフィリピン諸島 (M7.0) の地震について、気象庁が情報発表に用いた震源地名は「インドネシア付近」(詳しい震源の位置は「インドネシア、タラウド諸島」) である。
- ・2021年1月24日のサウスシエトランド諸島 (Mw6.9) の地震について、気象庁が情報発表に用いた震源地名は「南極付近」(詳しい震源の位置は「大西洋西南部」) である。

# 1月15日 インドネシア、スラウェシの地震

2021年1月15日03時28分（日本時間、以下同じ）にインドネシア、スラウェシの深さ18kmでM6.2の地震（USGSによる）が発生した。この地震の発震機構（GlobalCMTによる）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。この地震により、インドネシアでは死者91人、行方不明者3人、重傷者404人などの被害が生じた（1月22日現在）。今回の地震が発生する約12時間前に、ほぼ同じ場所でM5.7の地震が発生している。

2001年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生しており、2018年9月28日に発生したMw7.5の地震（Mwは気象庁による）では死者2000人以上などの被害が生じた。

1970年以降の活動をみると、ニューギニア島西部からカリマンタン島にかけて、M7.5以上の地震が時々発生している。1976年8月17日に発生したM8.0の地震では、この地震により津波が発生しており、また、死者8000人などの被害が生じた。



※本資料中、震央分布図①内の震源要素は米国地質調査所（USGS）による。但し、吹き出しの付いた地震の発震機構とMwについて、2018年9月28日の地震は気象庁による、その他の地震の発震機構はGlobalCMTによる、2001年10月19日、2008年11月17日の地震のMwはGlobalCMTによる。震央分布図②内の2016年以前の地震の震源要素は国際地震センター（ISCGEM）、2017年以降の地震は米国地質調査所（USGS）による（2021年2月1日現在）。ISCGEMによる震源データの地震の規模はMwである。1976年8月17日の地震の被害は宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）\*より引用。  
\*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

# 1月21日 フィリピン諸島の地震

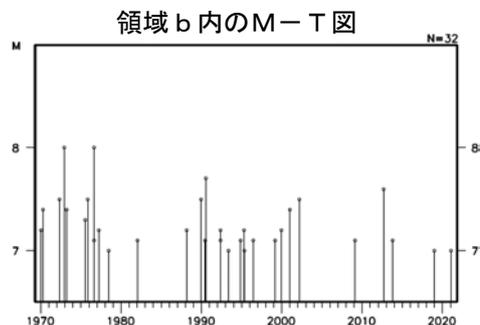
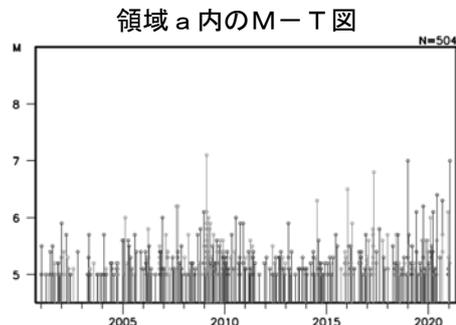
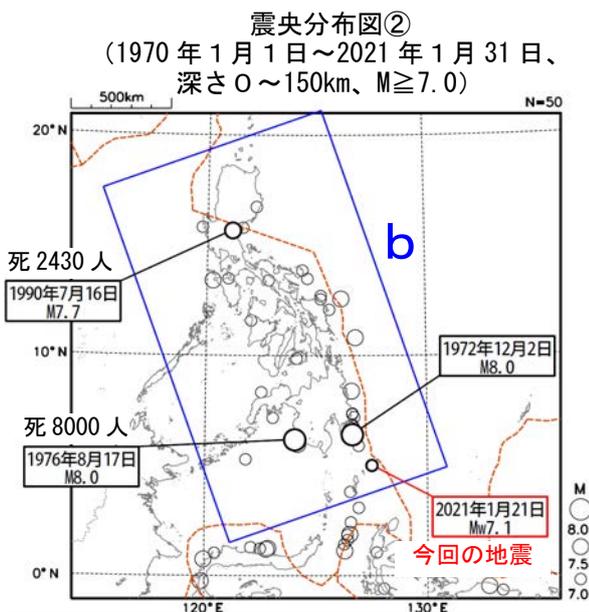
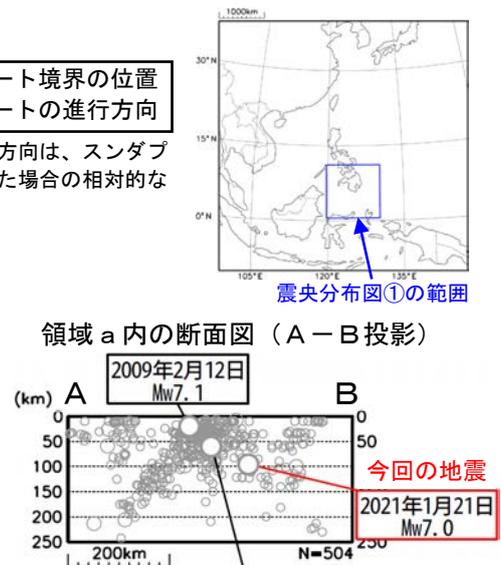
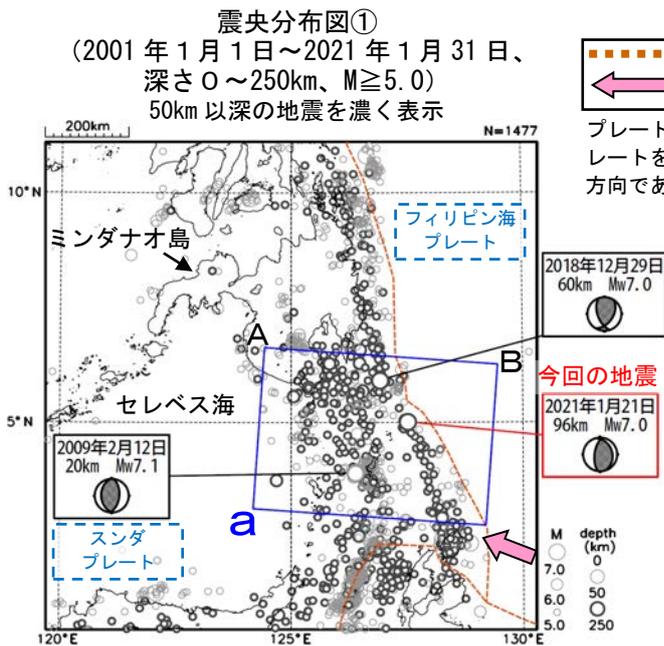
情報発表に用いた震央地名は「インドネシア付近」（詳しい震源の位置は「インドネシア、タラウド諸島」）である。

2021年1月21日21時23分にフィリピン諸島の深さ96kmでMw7.0の地震(Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード)が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に圧力軸を持つ型(気象庁によるCMT解)で、フィリピン海プレートの内部で発生した。

気象庁は、この地震に対して、同日21時47分に北西太平洋津波情報を発表し、同日21時51分に遠地地震に関する情報(津波の心配なし)を発表した。

2001年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)では、M6.0以上の地震が時々発生している。

1970年以降の活動をみると、フィリピン諸島周辺(領域b)では、M7.0以上の地震が時々発生している。1976年8月16日に発生したM8.0の地震では、この地震による津波が発生したほか、死者8000人の被害が生じた。



※本資料中、震央分布図①内の震源要素は米国地質調査所 (USGS) による。但し、吹き出しの付いた地震の発震機構と Mw について、今回の地震及び2018年12月29日の地震は気象庁による、また、2009年2月12日の地震はGlobalCMTによる。震央分布図②内の2016年以前の地震の震源要素は国際地震センター (ISCGEM)、2017年以降の地震は米国地質調査所 (USGS) による(2021年2月1日現在)。ISCGEMによる震源データの地震の規模は Mw である。1976年8月17日の地震など吹き出しのある過去の地震の被害は宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird (2003) \*より引用。

\*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成

# 1月24日 サウスシェトランド諸島の地震

情報発表に用いた震央地名は「南極付近」（詳しい震源の位置は「大西洋南西部）」である。

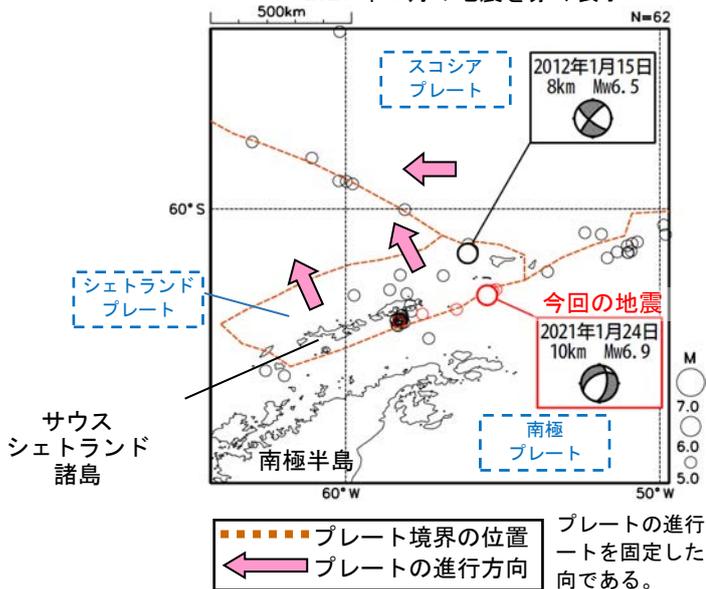
2021年1月24日08時36分にサウスシェトランド諸島の深さ10kmでMw6.9の地震(Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード)が発生した。この地震の発震機構は、北西-南東方向に張力軸を持つ正断層型(気象庁によるCMT解)である。

気象庁は、この地震に対して、同日09時09分に遠地地震に関する情報(日本への津波の心配なし)を発表した。

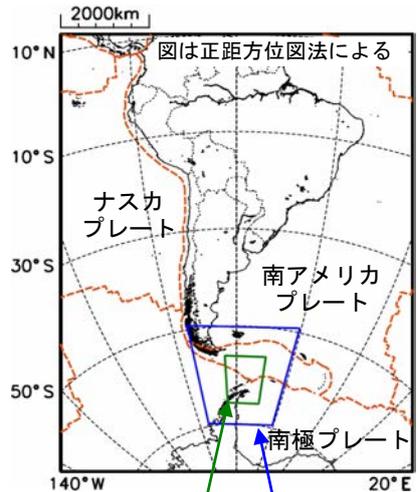
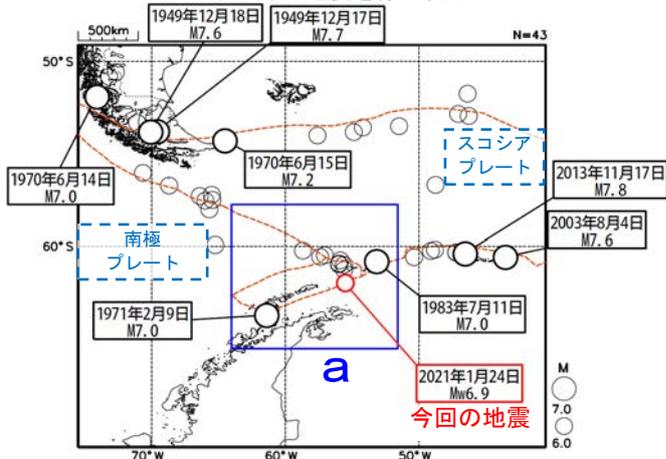
2001年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、M5.0以上の地震が時々発生しており、その内M6.0以上の地震は今回の地震を含めて2回発生している。

1930年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域a)では、M7.0以上の地震が1971年と1983年に各1回発生している。

震央分布図①  
(2001年1月1日~2021年1月31日、  
深さ0~60km、M≥5.0)  
2021年1月の地震を赤く表示

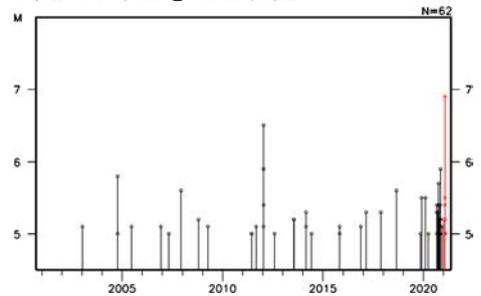


震央分布図②  
(1930年1月1日~2021年1月31日、  
深さ0~100km、M≥6.0)  
2021年1月の地震を赤く表示

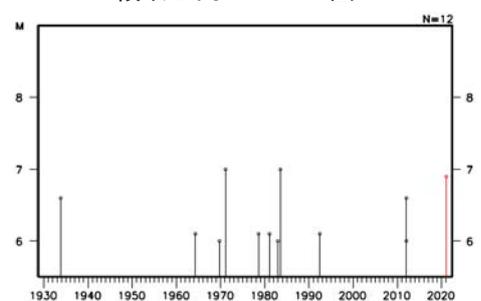


震央分布図①の地図範囲  
震央分布図②の地図範囲

震央分布図①地図範囲内のM-T図



領域a内のM-T図



※本資料中、震央分布図①内の震源要素は米国地質調査所 (USGS) による。但し、吹き出しの付いた地震の発震機構と Mw について、今回の地震は気象庁による、また、2012年1月15日の地震は GlobalCMT による。震央分布図②内の2016年以前の地震の震源要素は国際地震センター (ISCGEM)、2017年以降の地震は米国地質調査所 (USGS) による (2021年2月1日現在)。ISCGEM による震源データの地震の規模は Mw である。プレート境界の位置と進行方向は Bird (2003) \*より引用。  
\*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4 (3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.